

第4・5地区 地区別実践発表 検討会記録

次第	内容
1 開会	運営責任者挨拶
2 発表者・運営役員紹介	司会確認 発表者紹介・挨拶 役員紹介
3 実践発表	<p>発表資料参照</p> <p>児童の実態：基礎学力は定着しているが、教えてもらうことに関心が強く、自分で考えて追求しようとする意欲・経験が少ない。</p> <p>→たくさんの数量や図形に触れ、児童自ら問題を発見し、思考・表現しながら算数を想像していく力を付けさせたい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>研究の視点と手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ○視点1：日常の事象を数理的に捉える。 ○視点2：見通しを持ち、筋道を立てて考え表現する。 ○視点3：学習の振り返りを充実する。 </div> <p>問い：給食のごはん（ごはん缶）にはどれくらいの米粒が入っているのか。</p> <p>○視点1 「知りたい。」「数えたい。」→4人1組で数える活動へ進む</p> <p>○視点2 「10個ずつまとめて数えてみよう。」「時間がかかるから、20のまとまりにしよう。」10のまとまりをつくるよさ。10のまとまりが10こで100になることを実感。→見通しを持ち筋道を立てて考え表現する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>じゃんけんゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掲示の仕方の工夫→数え棒の数ではなく、位が大事だと気付かせる。 ・活動を通して自らの問題を見だし解決方法を考えていく姿が見られた。 </div> <p>○視点3 教科書のDコンテンツを活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空位に注目させる。すばやく数を入力するにはドットをどのように書き込めばいいかなど、位取りを意識して取り組んでいた。 ・23を10個たすといくつ？という問いから10回たした数と10倍した数は同じと気づき、計算の仕方を工夫する児童が出てきた。 <p>230を10個たすと？→10倍すればいいことに気付いた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>研究のまとめ</p> <p><u>視点1</u>：日常の事象と算数の問題を結び付けることで児童が明確な目的意識をもって意欲的に活動する姿を見取ることができて有効だった。</p> <p><u>視点2</u>：既習事項や具体物、図や式を基に友だち同士の話し合いなど様々な場面で表現する必然性のある場面を工夫したことで問題解決の方法を考える上で有効だった。</p> <p><u>視点3</u>：教師が、「何を学んだのか」を明確にし授業の最後に振り返るのではなく適宜振り返りながら活用していくことで思考力表現力が高まっていった。</p> </div>

	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学年の具体物を用いた数学的な活動の重要性を改めて実感できた。ゲーム的要素の中に学ぶ目的と必要性を教師がしっかりと理解し、教材研究をした上で取り組ませることが大切だと感じた。 ・単元を通して、「どのような力を付けさせたいか」を明確にして取り組ませていくことの重要性を感じた。
<p>休憩</p>	
<p>4 質疑応答・協議</p>	<p>■→質問 ▲→返答 ●→意見</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「協議のテーマ」</p> <p>①10000の量感をつかませるためにどうするか。</p> <p>②Dコンテンツをどのように活用しているか。</p> <p>③数の相対的な大きさをどのようにとらえさせているか。</p> <p>④3年生「10倍した数=×10」はつかみやすいがわり算を学習したばかりの3年生に「10でわった数」をどのようにつかませたらいいか。</p> </div> <p>■①10000の量感</p> <p>■10000を超える数はお金を使うと分かりやすいが今回はなぜお金を使わなかったのか。</p> <p>▲身近な物で量感をつかませたかった。総合で大豆について調べていたので大豆を考えたが、栄養士と相談して米粒にした。また、今の子供たちはお金を使う場面が減っていて（キャッシュレス）馴染みがない児童もいると考えた。</p> <p>●他学年においても児童は量感をつかめているのか。</p> <p>大人と子供では感覚の違いがある。</p> <p>100はほとんどの児童が量感をつかんでいるが、1000から10000と数が大きくなるほど量感をつかんでいる児童は少なくなっていると感じる。</p> <p>■②Dコンテンツの活用法</p> <p>●（コメント欄から）3・4年生「そろばん」5年生「多角形の角」4年生「計算のきまり」などで活用している。</p> <p>▲単元に入る前にDコンテンツは必ずチェックし、単元ごとに有効なICTを活用していくようにしている。（ロイロノートやJamboardなど）</p> <p>本単元のDコンテンツでは、10000の数までしかなかったもので、これより大きな数は自分たちで位を作っていけばいいのだと気付かせることができた。</p> <p>■Dコンテンツを使うタイミング</p> <p>●「計算のきまり」の場面ではドットを動かして自力解決させ、その後にロイロなどで全体共有してまとめていく。</p> <p>●導入の際、具体的な絵ではなくテープ図などのアニメーションにして使う。（具体物から半具体物へ）</p> <p>■③数の相対的な大きさの捉え方</p> <p>▲本単元ではゲームやカードを使って進めたので意欲も高く、数直線やテープ</p>

	<p>図は量感をつかませるのに有効だった。</p> <p>→算数の用語（文章表現）を身につけ、慣れさせていくことが課題。数の日常化。授業で学習したことが、どれだけ生活で生かされているかを児童が実感できるようにしていく。</p> <p>■④「10でわった数」をどのように教えるか。</p> <p>●4年生の小数では、計算の仕方（問題の解き方）として理解していても意味を正しく理解できているかは不安がある。</p> <p>●4年生でも反応は薄かった。10分の1を押さえる際に重要なのは「10倍した数を視覚化できているか」ということ。</p> <p>例) 25が10個集まると250になるということを理解させた上で、250を10個に分けたうちの1個が25だと伝えれば理解しやすい。</p> <p>●数の相対性を身に付けることが重要。</p> <p>10進法の表記の仕方も相対性が身に付いていることが前提となっている。</p> <p>10倍とは、0が1つ増えたということではなく、位が1つずれて大きくなったから、空いた一の位に0が入ったという理解をさせること。</p>
<p>5 指導助言</p>	<p>板書の良さ。温かい雰囲気がスライド内の写真から伝わってきた。</p> <p>○研究の視点1：米粒を使った実践が良かった。楽しんで意欲的に取り組んでいたのが伝わってきた。おはじき・ブロックなどの実践はあるが、今回は児童の実態や生活経験に合わせた実践になっていたのがすばらしかった。</p> <p>○研究の視点3：観点をしっかり児童に与え、過程の中で振り返らせていたのが良かった。児童に対する切り返しの様子が参考になった。</p> <p>○単元構想がしっかりしていた。手立てがバランスよく配置されていた。Dコンテンツ等の使用場面も計画に盛り込まれていて、指導や記録に生かす評価が明確だった。</p>
<p>6 御礼の言葉</p> <p>7 閉会</p>	<p>現行の学習指導要領も折り返し地点にきている。</p> <p>○知識量重視の学習から、活用していく力を重視する評価へ。</p> <p>○自分に必要な力を自分で考え、目標に向かって粘り強く取り組む力を育てていくことが重要。</p> <p>○アクティブラーニングからスタートして主体的・対話的で深い学びへ。</p> <p>○日々の教員の工夫と努力、校内や市内での学び合いが大切になってくる。以下のキーワードの意味と目的を正しく理解することが授業改善の大前提になる。今回の実践を参考に、明日からの授業に生かしていきたい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>算数の教科目標のキーワード</p> <p>○数学的な見方・考え方を働かせる。</p> <p>○数学的な活動を通して資質能力を身に付ける。</p> </div>